

下京雅学校だより

第一回 学校評価特集
~SHIMOGYO-MIYABI News Letter~



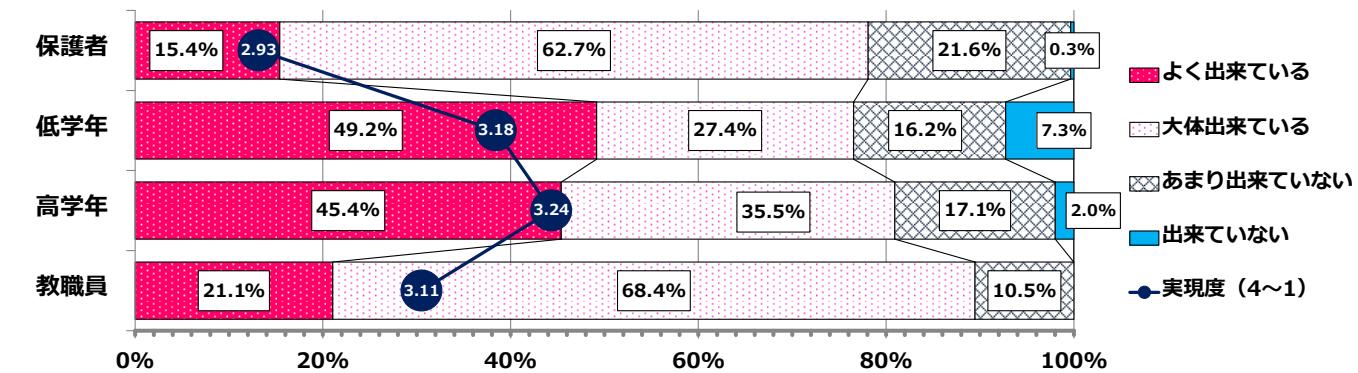
令和元年10月
京都市立下京雅小学校

平素は、本校教育にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、7月に実施いたしました令和元年度第一回学校評価アンケートの結果についてお知らせいたします。保護者の皆様には、お忙しい中、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。保護者の皆様と児童と教職員が共通の質問項目でアンケートをとり、その実現度を比較しました。学校評価の結果を真摯に受け止め、よりよい下京雅教育の在り方を探り、今後に生かしていきたいと考えております。

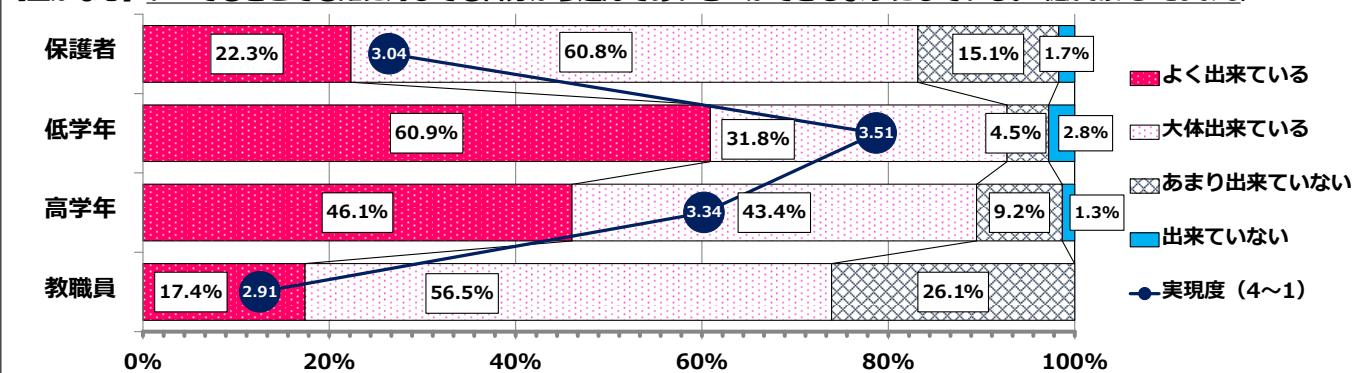
【アンケート集計結果】（「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」「いじめ防止等」「家庭・学校、地域との連携」の項目から一つを選んで分析しました。）実現度の値は、解答の平均値を1.0～4.0のスコアで表示したものです。

【確かな学力】子どもが自分の考えをしっかりと言えるように、子どもの言葉を待つようにしている。（自分の考えがきちんと見える）



保護者や教職員において、「出来ていない」と否定的に回答した割合がほぼ0%であったことに対し、低学年児童は7.3%という結果でした。実現度については、昨年度との比較において、保護者が0.11ポイント増加したのみにとどまり、低学年、高学年、教職員について、いずれも昨年度を下回る実現度となりました。自分の考えを言葉にして伝えることは、意外と難しいものです。頭にイメージはあるものの、言葉にするには難しいという状態は、自分の思考を整理できていない状態であると考えられます。整理できていないと、思考の深度は浅いままで、記憶や理解が自分のものにならずに消えてしまうといわれています。そのためには、自分の考えていることを、文や図にするなど、見える化させることが大切です。また、「正しいことを言わないといけない」「相手を怒らせないことを言わないといけない」ということばかり考えてしまっていることもあるかもしれません。そのためにも、聞く側の傾聴する態度も大切です。これからも「話すこと、聞くこと」の両面を、丁寧に指導していきたいと思います。

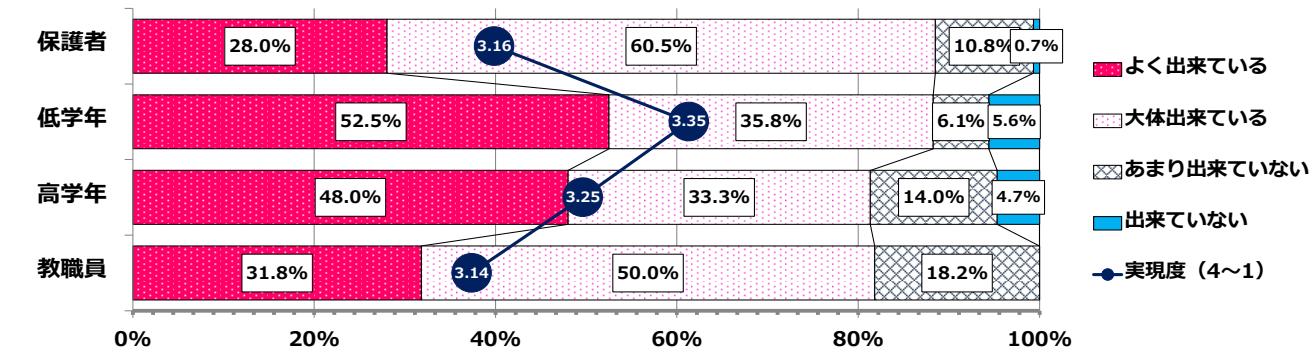
【豊かな心】いつでもどこでも誰に対しても自分から進んであいさつができるようにしている。（進んであいさつをしている）



あいさつについては、開校当初から重点的に取り組んできました。低学年・高学年において、「よく出来ている」「大体出来ている」と肯定的に回答した割合が約90%であったことから、子どもたちは、「いつでもどこでも誰に対しても自分から進んで」あいさつができると感じているようです。実現度についても、昨年度から、低学年で0.08ポイント、高学年で0.12ポイント増加していました。一方、教職員については、「あまり出来ていない」と否定的に回答した割合が26.1%で、昨年度と比較すると、1.1ポイント増加していました。学校内で進んであいさつすることができてきている反面、一歩学校を離れると、なかなか進んであいさつをするという姿が見られないのが現状です。誰に対しても気持ちよくあいさつができる下京雅の子を目指して、日々取組を進めていきたいです。

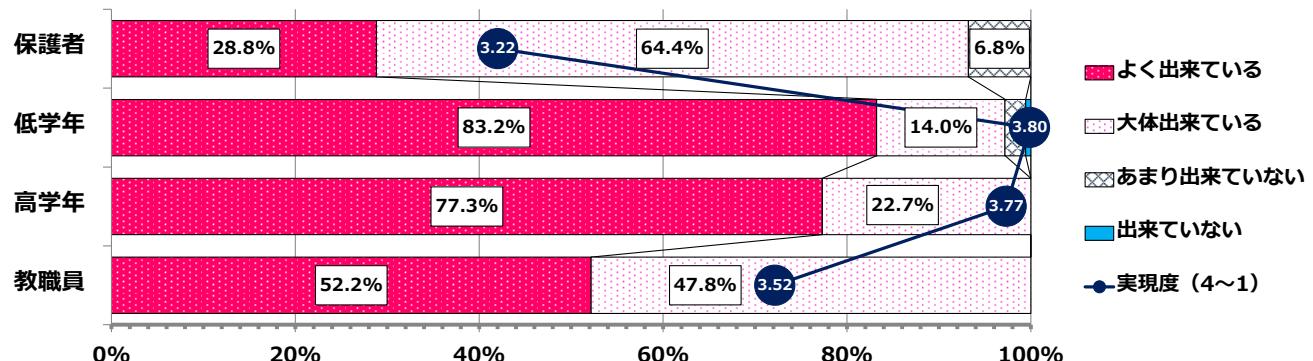
ご協力ありがとうございました。

【健やかな体】子どもたちが好き嫌いなく食事ができるように働きかけている。(好き嫌いなく食事をしている)



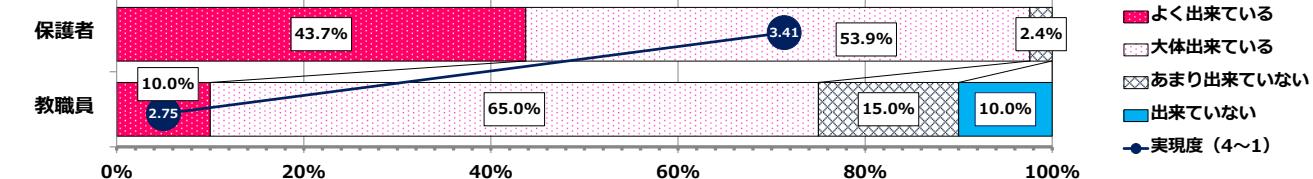
低学年において、「よく出来ている」「大体出来ている」と肯定的に回答した割合が約88%，高学年で約81%となり，いずれも昨年度と同じような結果となりました。一方、「あまり出来ていない」「出来ていない」と否定的に回答した割合に目を向けると、保護者・低学年・高学年・教職員で、約10%から約19%という結果でした。学校給食では、子どもたちの心身の健康保持増進や生活態度の育成を図るとともに、学級における好ましい人間関係を育てるこことをめあてに実施しています。好き嫌いなく食べることを丁寧に指導していますが、何より「食べることが楽しい」と感じることができるように、日々の食育活動を進めております。ご家庭におかれましても、毎日、給食の献立表に目を通し、食べ物に关心をもたせると同時に、食べられなかったものが何かを尋ね、それらもからだにとって大切であることを知させていただくなど、ご協力をお願いいたします。

【いじめ防止等】「自分自身を大切にする」ということを、常に意識しながら子どもたちに関わっている。(自分を大切にしている)



昨年度の、「自分は大切にされている」という質問から、「自分を大切にしている」という質問に変更した今年度。低学年、高学年において「よく出来ている」「大体出来ている」と肯定的に回答した割合が約95%を超えた高い数値であり、自分を大切にするという自尊感情が高い子どもたちが多いことがわかりました。同時に聞いた、「友だちを大切にしている」という質問についても、ほぼ100%の割合であったことから、いじめを許さない態度が身についていると考えられます。この結果に満足せず、いじめについては、「どの子どもにも、どの学校においても起こり得るものであることを十分認識し、すべての子どもたちがいきいきと学校生活を送ることができるようサポートしていくたいです。

【家庭・学校、地域との連携】学校は、ホームページや学校だより、学習予定表などで学校の様子をわかりやすく伝えている。



保護者において、「よく出来ている」「大体出来ている」と肯定的に回答した割合が、約97%と高い割合となりました。実現度についても、昨年度より1.3ポイント増加し、保護者の方々の満足がある程度、得られているのではないかと考えました。統合三年目の今年度も、下京雅五大フェスティバルを中心とした様々な取組を進めてまいります。学校の取組を保護者・地域と共にし、社会に開かれた学校の実現を目指すためにも、次年度以降も、一人一人の教職員の意識をさらに高め、分かりやすく発信していきたいです。ご希望・ご要望がありましたら、遠慮なく学校まで、ご連絡いただき、ともに学校を創っていきましょう。

学校運営協議会の方々のご意見 (多くの意見をいたしました)

様々な場面で子どもたちの成長の過程を大切にされているように感じています。過程を大切にされることで、子どもたちの自信にもつながりますね。

子どもたちにとっては誰かわからない私たちですが、そんな中でも、積極的にあいさつしてくれる姿が広がっています。登校のあいさつについては、登校班によって差があるように感じます。登校班長の力も影響していると思います。

幼稚園でも京のおばんざいをつかったお弁当がでます。小学校も幼稚園も同じように栄養指導が行われていることは、とてもありがたいことです。

これらの結果を、来年度の下京雅教育推進に生かしていきたいと思います。